

首題爭議其後ノ状況屯記ノ通り

一 總同盟側ノ行動

向商支部顧問小栗栄七等ハ評議會系トノ對抗
運動並ニ會社ニ對スル示威運動トシテ去ル二十九日午
後七時ヨリ吾嬭町請地四一〇所在工員俱樂部ニ
於テ「日本電線時局問題」ト題シ演說會ヲ開催セ
ルカ聽集約二四〇名(内日本電線職工五〇名)ニシテ小栗
栄七開會ヲ宣シ續イテ東京鉄工組合長内田藤
七執行委員田中小次郎、関東合同労働組合主
事細谷松太外五名ノ兼士交々登壇演說セルカ其
論旨ヲ綜合スルハ評議會系ノ過激ナル行動ヲ罵倒シ
テ現実主義ノ據ル總同盟ノ發展状況ヲ述ヘ速力ニ總

同盟ニ加入スヘシト叫ヒ更ニ日本電線株式會社ハ財
界ノ一才ニ雄飛スル古河系ニ屬スルニ職工賃銀ハ最モ
低廉ナルヲ以テ吾等ハ値上要求ヲ提出セリ若シ此ノ
正當ナル要求ヲ拒絕スルコトアラハ徹底的ニ抗争スヘシ
ト力説セルカ格別ノ事故ナク午後十時散會セリ、翌三十
日午後四時半會社側ヨリ歎願書ニ對スル回答ヲ爲ス
旨ノ通知ヲ受ケ職工代表トシテ小栗、後藤ノ二名會社ニ出
頭シ崎山事務、武部工務課長ト會見シ崎山事務ヨリ
現社ノ経済状況及全従業員ノ空氣並ニ評議會系トノ關係上
歎願條項ハ全部認容ニ難シ尙將來工場内ニ於テハ絶對ニ
職工大會等ハ許可セサルヘシト申渡サレ職工代表ハ一應全
員ニ諮リタル後何分ノ返事ヲ爲スト称シ辭去ニ直チニ小栗ノ